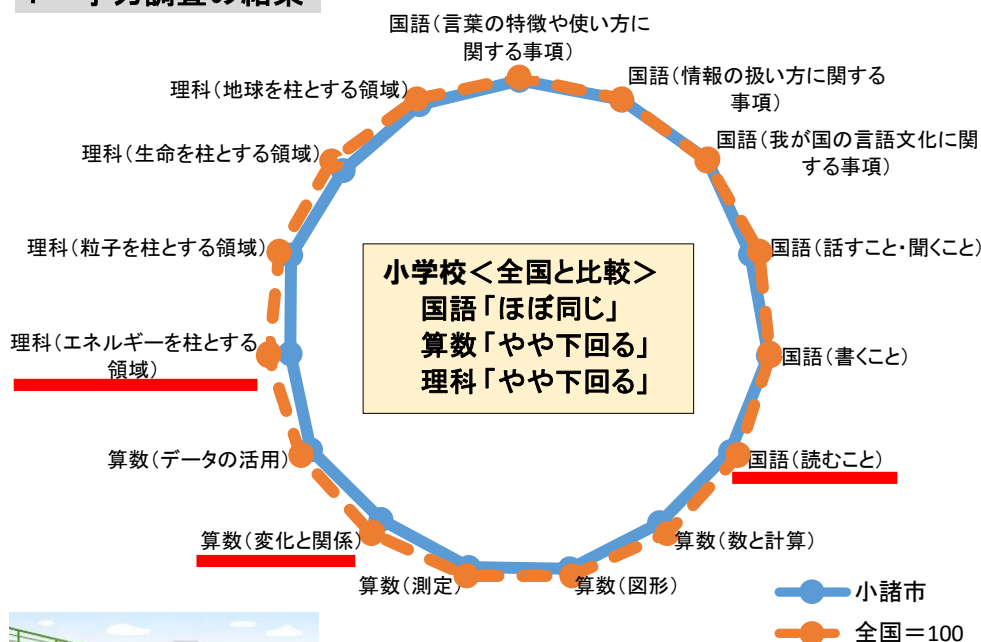


令和 7 年 4 月 14 日～4 月 17 日、全国学力・学習状況調査が行われました。この調査は、小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象とし、今年度は「国語」、「算数・数学」の 2 教科と令和 4 年度以来の「理科」が実施されました。小諸市内小中学校の調査結果は、学習指導要領の内容項目の平均正答率を全国（100）として比べると、以下のグラフのような結果となりました。出題の趣旨からみた主な成果（◎）と課題（△）も示しました。

1 学力調査の結果



国語（小）

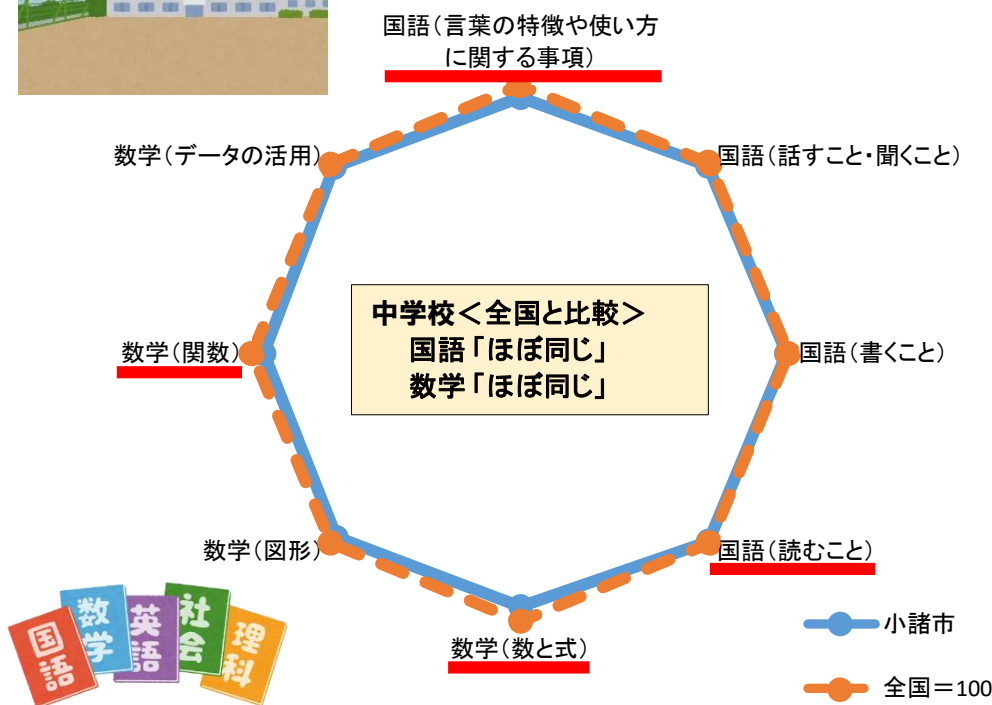
◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる。（「言語文化」）△目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。

算数（小）

○「図形」⇒台形の意味や性質について理解している。
△「変化と関係」⇒「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる。

理科（小）

◎顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている。
△電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている。



国語（中）

◎「書くこと」⇒読み手の立場に立って、表記や語句の用法・叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。
△「言葉の特徴や使い方に関する事項」⇒事象や行為を表す語彙について理解している。
△「読むこと」⇒表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

数学（中）

◎「図形」⇒多角形の外角の意味を理解している。
△「関数」⇒事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
△「数と式」⇒素数の意味を理解している。

★全国と比較すると、小中学校ともに国語は「ほぼ同じ」という結果になりました。なお、中学校理科については、オンライン方式(CBT)試行による選択式問題のため、今年度結果の比較は行いません。
★次頁以降には、右上の各教科に示した課題（△）に関して、子供たちが苦手としている実際の問題の一部を取り上げてみました。また、「児童生徒質問紙」調査の結果からみえてきた点もまとめました。

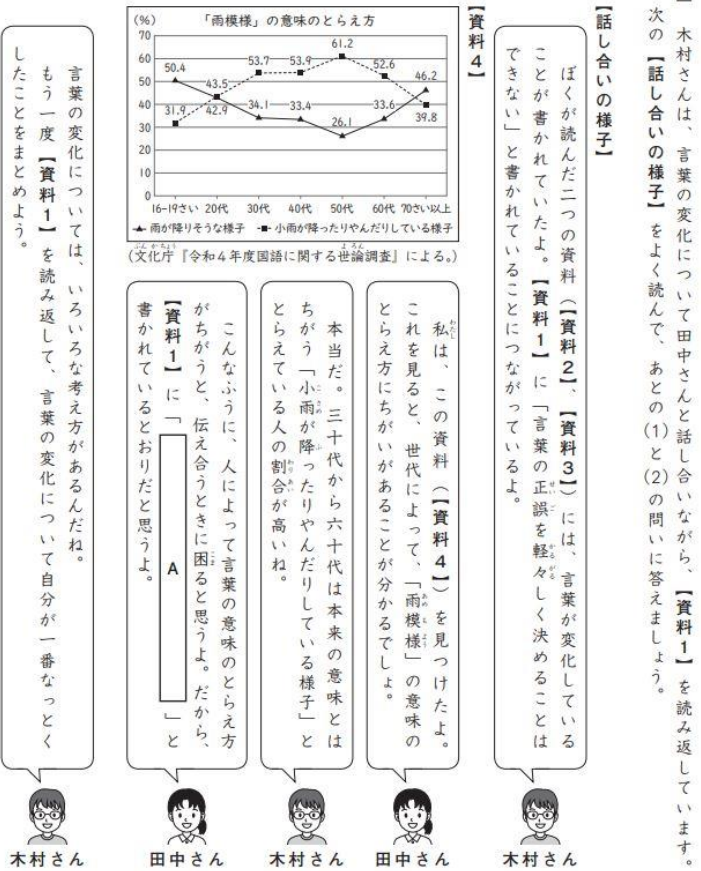
2 苦手（課題△）としている問題は・・・

・児童生徒が苦手としている実際の問題は、以下のようなものでした。各問題にはどんな力が求められているのか（出題の趣旨、問題の概要等）、また市内児童生徒の多かった誤答の傾向も付しました。

国語（小）

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

- (2) 木村さんは、「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、「資料2」、「資料3」、「資料4」に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。
- （条件）
- 言葉の変化についてなっとくしたことを「資料1」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - なっとくした理由を「資料2」、「資料3」、「資料4」の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。



この問題に求められている力

【出題の趣旨】

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題です。

【問題の概要】

この問題では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるためには、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要です。必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが大切になります。

ここでは、木村さんが「話し合いの様子」を受けて、自分が納得したことをまとめようとしています。言葉の変化について納得したことを「資料1」から言葉や文を取り上げ、納得した理由を「資料2」、「資料3」、「資料4」から言葉や文を取り上げてまとめることが求められます。

【正答例】

納得したことを「資料1」から言葉や文を取り上げ、納得した理由を「資料2」、「資料3」のいずれかから言葉や文を取り上げて書いています。

【文例】

「言葉は年月とともに変化するということになっとくしました。なぜなら、『新しい』という言葉が、奈良時代には『あらたし』と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。」

【誤答等の傾向】

「資料2」、「資料3」、「資料4」から言葉や文を取り上げて書いています。しかし、納得したことを「資料1」から言葉や文を取り上げて書いていません。

【文例】

「現代の人は、言葉を現代の意味で使うのが一番いいということになっとくしました。なぜなら、『とても』という言葉の意味は、時代によって変化しているからです。」

国語（中）

- 1 第一中学校では、毎年、美術の時間につくった作品を展示する美術展を行っています。今年は、昨年美術展に来場した小学生の感想をもとに、内容を工夫して開催します。実行委員の中井さんは、地域の小学校6年生に向けて、来場を促すためのちらしを作成することになりました。次は、中井さんが参考にした【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】と、文書作成ソフトを用いて作成している【ちらし】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【ちらし】（更新版①）

第一中学校 美術展



毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。

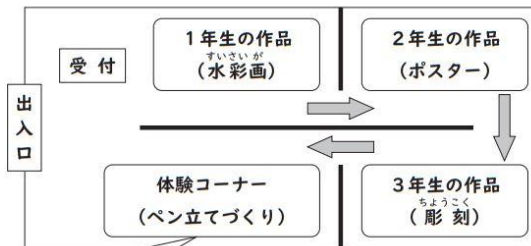
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいいしんの出来です。

今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。
体験コーナーでは、中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

日 時 令和7年11月15日（土） 10時～16時

場 所 第一中学校 体育館


会場図



体験できる時間（各回30分間）

①10時～ ②11時～ ③12時～ ④13時～

中学生といっしょに、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

三 中井さんは、【ちらし】（更新版①）のように、——線の部分を削除して  の中に書き加えました。その意図を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 具体例を示したあとに要点を示すことで、中心となる情報に対する読み手の理解を深めようとした。
- 2 伝えるべき事柄に見出しを付けることで、読み手に速やかに情報を伝えようとした。
- 3 情報を示す位置を整理することで、関連する情報を読み手がまとめて得られるようにした。
- 4 時間の流れに沿って情報を示すことで、読み手が必要とする情報を見付けやすくした。

【正答】○『3』

・書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができる。

【誤答の傾向】▲『2』

・内容のまとまりを意識することはできているが、吹き出しの中に書き加えた内容が、伝えるべき事柄の見出しであると誤って捉えたものと考えられる。

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題です。

※学習指導要領における内容

・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。《構成の検討》

【問題の概要】

本問では、文書作成ソフトを使って、学校で行う美術展のちらしを作成する場面を設定しています。設問一では文脈に即して漢字を正しく使ったり、設問二・三・四では読み手である地域の小学校6年生の立場に立つて、情報を加えたり整理して示したりするとともに、特に伝えたいことについて根拠を明確にして書くことを求めています。

上記の設問三は、ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものであるとして適切なものを選択する問題です。

算数（小）

(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10 %増量」と書かれています。
増量前のつめかえ用のハンドソープの量は 800 mL です。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。
上の②にあてはまる数を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、
その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

【正答】

○『2』の 1.1 倍

【誤答の傾向】

▲小諸市の児童の最も多い誤答は『1』。その次が『3』です。
「増量後の量」は「増量前の量」の 1.1 倍であると捉え直せず、
増量分のみの量と考え、「1」と回答したものと思われます。
文章と図を結び付けて考える視点等も必要かと思われます。

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題です。

【問題の概要】

日常生活で、「10%増量」「30%引」などの百分率が用いられている場面において、倍を使って捉え直し表現できるようにすることが大切です。この問題では、「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかを問うています。

ここでは、「10%増量」について、「増量前の量」を 100%とすると 10%増量した「増量後の量」は 110%となることを基に、「増量後の量」は「増量前の量」の 1.1 倍であると捉え直し表現することが必要となります。

- 8 A 駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C 駅と D 駅の間にあるスタジアムによく行きます。

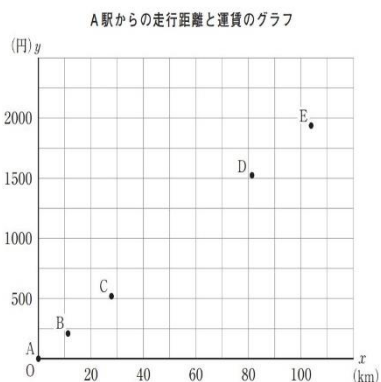


歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A 駅から新しい駅までの運賃がいくらになるのか気になりました。そこで、A 駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A 駅	B 駅	C 駅	D 駅	E 駅
A 駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A 駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

歩夢さんは、上の調べた結果を見て、A 駅からの走行距離と運賃にはどのような関係があるかわかりにくいと感じました。そこで、調べた結果をもとに、A 駅からの走行距離を x km、A 駅からの運賃を y 円とし、コンピュータを使って下のようなグラフに表しました。このグラフの点 A から点 E までの各点の x 座標と y 座標は、それぞれ A 駅から E 駅までの各駅の A 駅からの走行距離と運賃を表しています。



- (2) 歩夢さんがさらに調べると、新しい駅は A 駅から 60.0 km の地点につくられることがわかりました。そこで、A 駅から新しい駅までの運賃がおよそ何円になるかを予測することにしました。

A 駅から新しい駅までの運賃を予測するために、前ページの A 駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点 A から点 E までの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A 駅から新しい駅までの運賃はおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおよそ何円になるかを求める必要はありません。

【正答例】 「点 A から点 E をもとに、直線のグラフをかき、 x 座標が 60 のときの y 座標を読む」「対応する x と y の値をもとに、 x と y の関係を比例の式で表し、その式に $x = 60$ を代入し、 y の値を求める」「比例定数を調べ、A 駅からの走行距離が 60.0 km になるときの運賃を計算する」
 【誤答の傾向】 「グラフをかいて調べる」…グラフを用いることは記述しているが、「用いるもの」として、「直線のグラフをかいて利用する」こと、「用い方」として、「 x 座標が 60 ときの y 座標を読む」ことについて記述していないため、正答の条件を満たしていません。

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

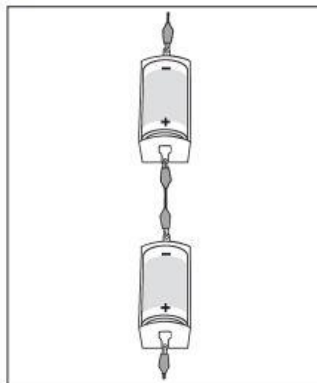
事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題です。

【問題の概要】

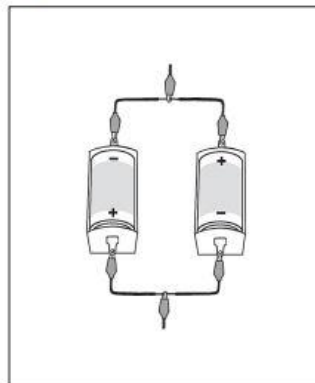
事象における数量の関係を見だし考察する場面において、問題解決の方法について説明することを求めています。A 駅から 60.0 km の地点につくられる新しい駅のおよその運賃を求めるために、「用いるもの」を明確にした上で、その「用い方」を数学的に説明するものです。その際、「用いるもの」として、直線のグラフ、比例の式又は一次関数の式、表や数値を用いて求めた割合のいずれかを明示する必要があります。その上で、「用い方」として、グラフを用いる場合は、 x 座標が 60 のときの y 座標を読むこと、式を用いる場合は、 $x = 60$ を代入して y の値を求めること、表を用いる場合は、表の数値から求めた割合を基に、A 駅から 60.0 km の地点にできる新しい駅までの運賃を算出することを記述する必要があります。

- (4) かん電池 2 個を直列につなぎ、電磁石の強さを最も強くできるのは、どのようなつなぎ方ですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

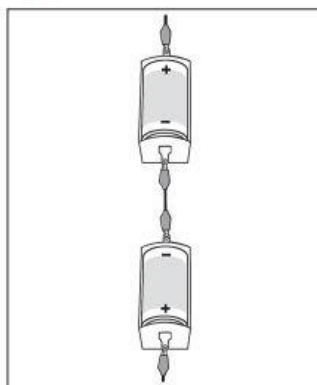
1



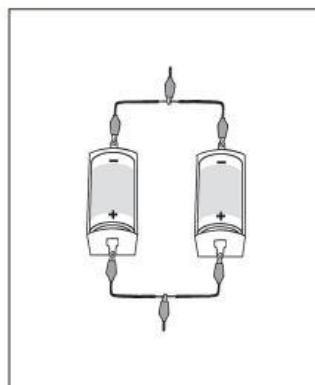
2



3



4



【正答】 ○『1』

【誤答の傾向】

▲『2』電磁石の強さを最も強くできるつなぎ方を理解できていないため、誤ったと思われます。「2」は、乾電池 2 個を並列に並べた図で、電極の向きが短絡（ショート）回路となる誤ったつなぎ方となっています。（ちなみに正しい並列つなぎは「4」です。）

さらに、電磁石の強さを最も強くすることのできるつなぎ方を示していません。このことから、複数の乾電池のつなぎ方、電磁石の強さを最も強くする乾電池のつなぎ方に関する知識を身に付けることに課題があると考えられます。なお、このつなぎ方は、短絡（ショート）回路となっているため、導線や乾電池が熱をもつなど危険なつなぎ方であることに留意したいところです。

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

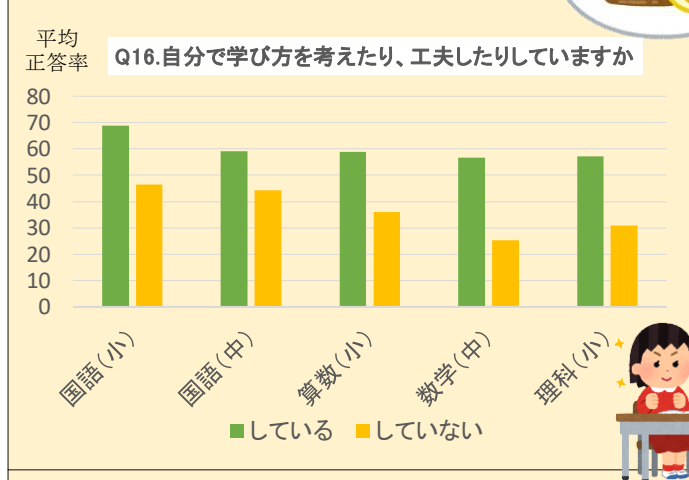
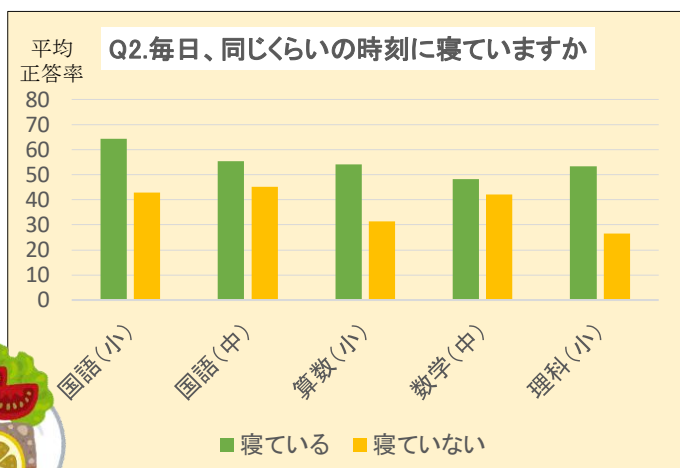
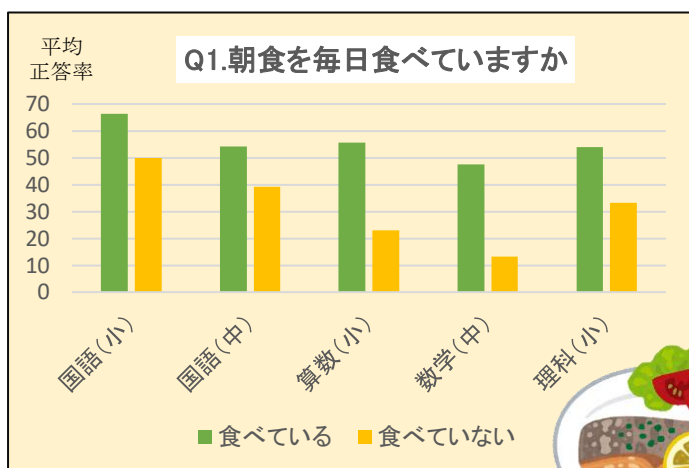
乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題です。

【問題の概要】

乾電池 2 個のつなぎ方について、直列につなぎや電磁石を強くできるものを構想できるかを問う問題です。ここでは、乾電池のつなぎ方について、直列つなぎ、並列つなぎの特徴を知識として身に付けていることが求められます。授業では、ものづくりでできた装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構成したりするなどして、理解を深めることの重要性について意識したり、工夫したりすることが大切であると考えています。

3 正答率からみた生活習慣と学力の関係性は・・・＜「児童生徒質問紙」調査の中から抜粋＞

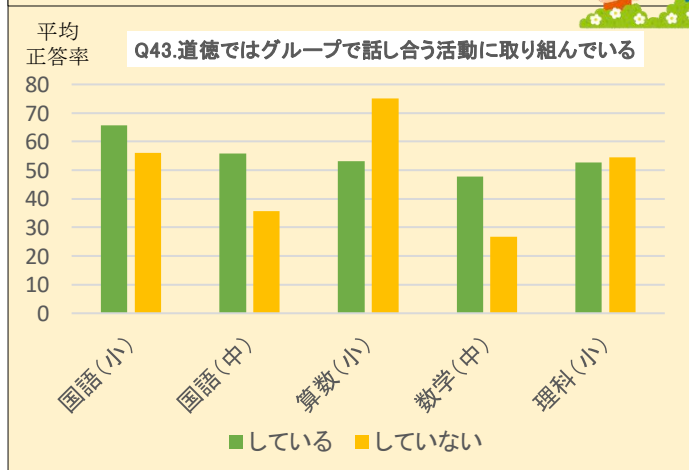
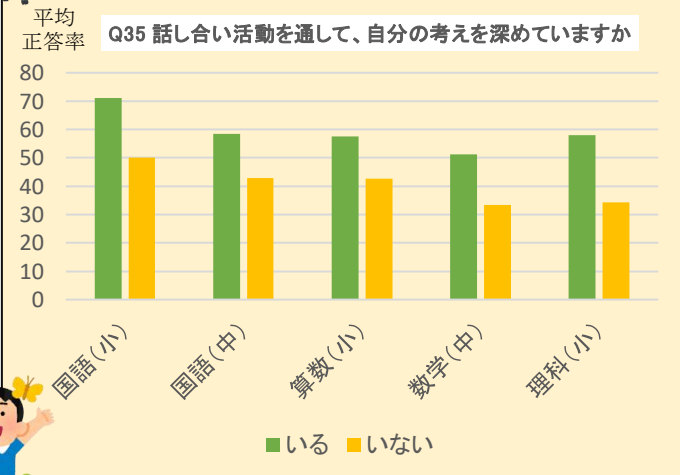
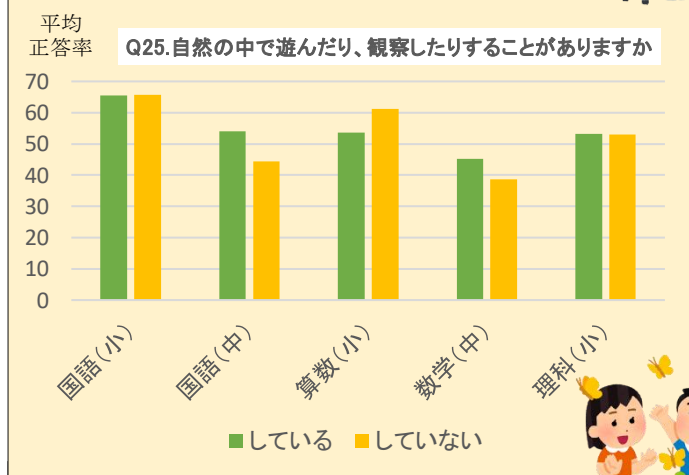
・子供たちの学力向上には、学校での授業や家庭学習の充実に加え、基本的な生活習慣を身につけることも欠かせません。以下は調査から抜粋した質問に対し、正答率との関係をクロス集計した結果です。



☆Q1. 市内小・中どの教科においても、毎日、朝食を食べている子供ほど、正答率が高い傾向にあります。

☆Q2. 毎日、決まった時刻に寝起きし、規則正しい生活習慣が身につけている子供ほど、前年度同様に正答率が高いことが分かりました。

☆Q1・Q2.『早寝・早起き・朝ごはん』の必要性は以前から言われています。規則正しい生活リズムを身につけ、維持していくことにより、脳が活性化され、学力アップにつながります。

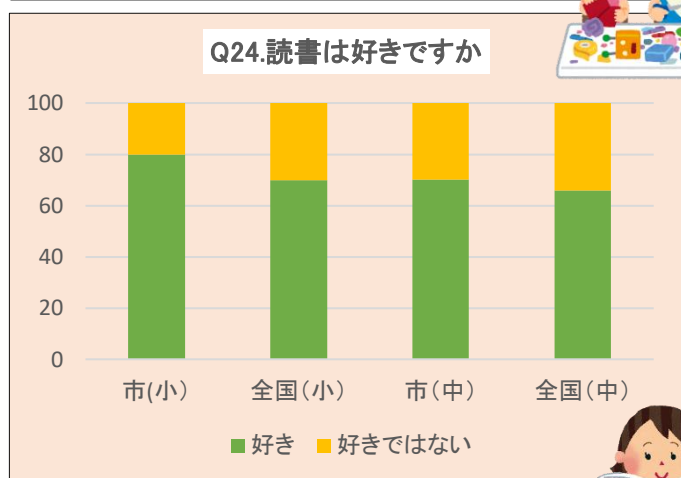
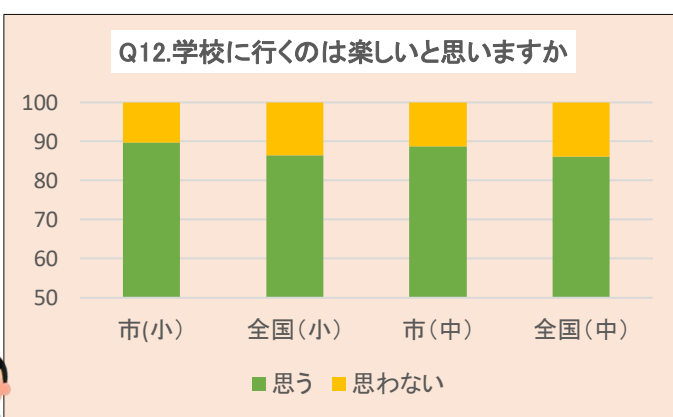
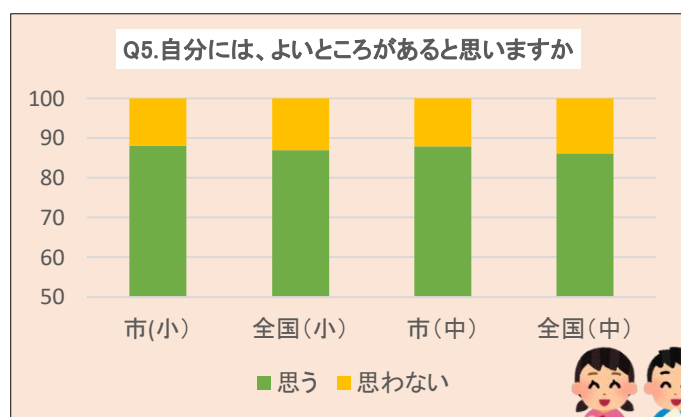


☆Q16. 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫して学習に取り組む力を育てていくことが、その後の学習内容の定着も含めて大切であると考えています。

☆Q35. 小諸市で取り組んでいる「対話と協働の学び」は、自分の考えを深めたり、新たな見方や考え方に気付いたりすることにもつながっています。

☆Q43. 話し合う活動は、国語や学級活動だけではなく、教科や学年に限らず、教科横断的に系統性をもたせた取組としていくことが必要だと考えています。

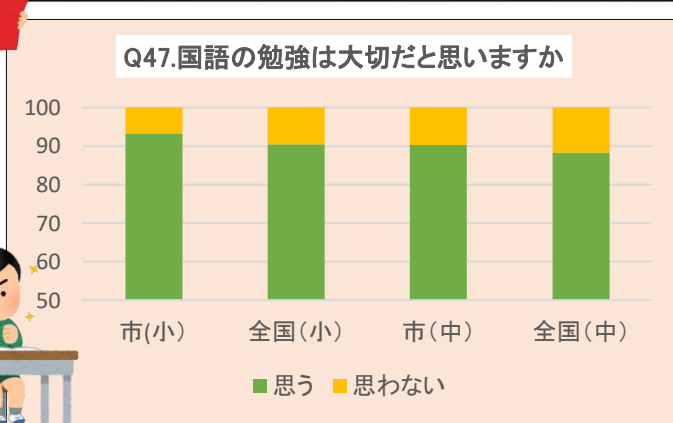
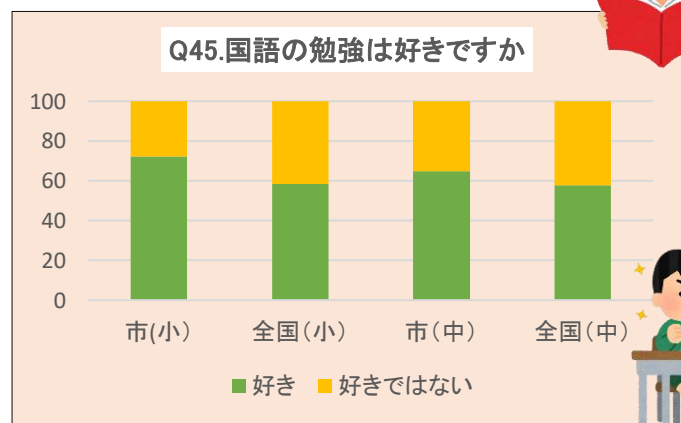
・学力の向上には、基本的な生活習慣を身につけることに加え、自分に自信を持ったり、意欲的に学校へと登校したり、授業の中で「できた」「わかった」を実感できたりすることも大切だと考えています。以下に抜粋して取り上げた各質問に関して、小諸市の児童生徒と全国の児童生徒の思いを比較してみました。



☆Q5. 自己肯定感が高まることは、学習のみならず、生活全般への意欲にもつながります。子供の考えを受けとめ、励ますことが大切です。そこから、自分のよさや自分の持ち味などに気づいていきます。

☆Q12. 小・中ともに全国と比較して多くの子供が、学校が楽しいと感じています。学校でも家庭でも、学習や生活面での充実を図っていくことが必要です。

☆Q24. 小諸市内の子供たちは読書が好きなお子が多いです。親子で同じ本を読み、感想を伝え合うこともよい取組になり、より読書好きな子供にします。



◇Q45・Q47. 小諸市の学校では、言語活動の充実に力を入れています。今年度の国語に関する質問では、国語の勉強について「好きである」「大切である」など、前向きな回答をしている子供が多くみられました。子供たちの学ぶ意欲を大切にしながら、「できた」「わかった」を実感できる授業を目指していきます。各校では対話をもとに子供同士が「学び合う」授業づくりに努めていきます。

※【注】Q①～⑪の回答は、本来4項目ありますが、肯定的な回答、そうでない回答の2項目の割合(%)で比較しています。

4 市内小中学校の今後の取り組みについて

この掲載内容は、小諸市の子供たちの学力や学習状況の一部であることをふまえつつ、今回の結果や各学校の分析結果を、今後の授業改善や家庭と学校との連携のあり方について考えるきっかけとして活用していきます。「心豊かで、自立(自律)する子供の育成」を小諸市学校教育目標とし、これからの時代に求められる子供たちの資質や能力のさらなる育成を図ってまいります。 <小諸市教育委員会>